



## 大図研近畿 3 支部合同例会 終了しました

テ ー マ：日本十進分類法新訂 10 版の全貌

概 要： 館種を問わず図書館には欠かせない日本十進分類法（NDC）。  
新訂 10 版が出たばかりの日本十進分類法は、いったいどんな改訂がなされたのでしょうか？  
旧版との違いや新訂 10 版を編集するにあたってのご苦労など、編集委員を務められた藤倉さんにお話を伺います。

講 師：藤倉 恵一 氏（文教大学越谷図書館）

開催日時：2015 年 3 月 21 日（土）13:45－17:00（13:15 開場）

場 所：京都市国際交流会館 第 1 会議室・第 2 会議室

参加費：大図研会員は無料  
（非会員は 500 円 参加費は当日会場でいただきます。）

共 催：大学図書館問題研究会大阪支部・兵庫支部

参加人数：51 名

### [目 次]

大図研近畿 3 支部合同例会 終了しました	…	1
大学図書館問題研究会大阪支部例会「春を求めて和歌山へ」：和歌山大学附属図書館渡部館長講演会、図書館見学と和歌山散策に参加して	今野 創祐	… 2
オープンアクセスと被引用率の関係 - 京都大学における生命科学系論文の統計から見えるもの	坂本 拓	… 4
『異動に伴うアドレス等変更のご連絡のお願い』	…	6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。  
電子メール：[kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com)（大学図書館問題研究会京都支部）  
URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

---

**大学図書館問題研究会大阪支部例会「春を求めて和歌山へ :  
和歌山大学附属図書館渡部館長講演会、図書館見学と和歌山散策」に参加  
して****今野 創祐**

---

大図研京都支部の今野です。このたび、2015年2月7日から、翌2月8日にかけて開催された、大図研大阪支部例会「春を求めて和歌山へ：和歌山大学附属図書館渡部館長講演会、図書館見学と和歌山散策」に参加しましたので、その報告を書かせていただきます。

初日の2月7日、まずは和歌山大学図書館3階のマルチルーム2にて、和歌山大学図書館長・特任教授の渡部幹雄先生のお話を伺い、和歌山大学の近年の改革の歴史を知りました。

渡部先生は、大分県緒方町立図書館、長崎県森山町立図書館などの公立図書館で、長きに渡って勤務された後、「教員として、和歌山の図書館振興に関われないか」という思いのもとで、2010年10月に和歌山大学附属図書館副館長・特任教授に就任されました。渡部先生は公共図書館の職員としては十分なキャリアをお持ちではあるものの、当時、大学の図書館では勤務されたご経験がなかったため、土日を使い、一人の利用者として、1~2カ月の間に30ほどの大学図書館を見学され、大学図書館の有り方について学ばれたとのことでした。

その後、2011年の1月に、和歌山大学の2011年度から2013年度までの行動宣言が出され、それを受けて、和歌山大学図書館の各年度の行動計画案が作成されました。この行動計画案は、例えば、配架の工夫や教員との連携といった30ほどの項目それぞれについて、行動計画区分、達成目標、行動細案、参考例、備考を作成するといった形式のものでした。この行動計画案を2年で達成できるかどうかはわからないが、これをやらないと改革はできないだろう、という覚悟のもとで、週1回のペースで、理事、課長を交えた会議が開催されたとのことでした。その結果、単年度ごとにさらに具体的な計画案が作成され、4月から翌3月まで、毎月、情報教育や月別研修など、各項目に於いてどのような業務をしていくかの計画が練られました。

2013年4月に館長に就任された渡部先生は、学長に直談判し、更なる改革に取り組みました。まず、和歌山大学では、従来、一般事務職員が図書館業務に携わることが多かったのですが、図書館を専門とする職員を新たに配置することを求められた結果、他の国立大や公共図書館の職員が、和歌山大学図書館にて勤務することとなりました。また、図書館長として教養教育の企画委員となり、各部局の長が集まる週1回の会議に出席をするなどの努力をされました。さらに、ラーニング・コモンズの導入や、図書館新棟を作り、従来、同じ分野の本でも2か所に分かれていた状況を改善し、混配にするなど、施設面での改革も進めました。

改革を始めて以来、図書館の利用者は増加し、2014年8月4日には過去最高の図書館利用者数を記録しました。また、図書の出借冊数は2015年1月の時点で、前年度対比約30%増となったとのことでした。

講演の最後に、今後の課題と展望として、図書館員に対して選書などの面で、可能な限り図書館の管理権限を与えることや、図書館員の地位向上、図書館職員養成の必要性などについて語られました。

続いて質疑応答となり、会場からは、渡部先生に対し、様々な質問が投げかけられ、それに対する回答をしていただきました。一例を挙げますが、「これまでで一番印象に残った大学図書館は？」という質問に対し、渡部先生が「資料の揃え方という点ではワシントン大学の図書館、司書による学生対応という点ではウォーリック大学の図書館」というご回答をされるといったやりとりがありました。

講演の終了後、渡部先生のご案内のもとで、講演会場のあった3階から1階まで、順に降りていき、最後にまた2階に戻るという形で、和歌山大学図書館の見学をしました。

3階にはメディアルーム、展示資料室、紀州経済史文化史研究所、開架図書、PC付自習室、書庫などがありますが、特に印象的だったのは、「教養の森センター」という、ガラス張りの研究室でした。この「教養の森センター」とは、全学共通の教養教育の充実及び教養教育と専門教育の有機的連携を図り、和歌山大学の教育目標を達成する事を主たる目的として2012年10月に設立された組織ですが、この図書館内にある部屋は、この組織に所属する教員の研究室であり、ガラス張りにしたことで、学生による教員の在・不在の確認を容易にし、ひいては学生による教員への質問を容易にしたとのことでした。また、グループ学習室の机・イスの形状は各階ごとに異なったデザインにしているとのことのお話もありました。

2階には開架図書、学生用図書、自習室、グループ学習室、書庫、蔵書検索コーナーなどがありますが、特に印象的だったのは、キャリア支援図書のコーナーおよびレファレンスカウンターがある部屋でした。この部屋には、情報検索の方法を指導する教職員が、一定の時間帯において配置されるレファレンスカウンターがあり、また、部屋中いっぱい、就職活動の指南書などのキャリア支援図書が並べられていました。こうしたスペースは他大学の図書館ではあまり見かけないように思いますので、新鮮な印象を受けました。

1階には新着雑誌、雑誌バックナンバー、書庫、参考図書、新書・文庫、紀要、紀学同窓会文庫、グループ学習室、視聴覚資料、視聴覚ブース、小・中学校教科書、観光資料・ガイドブック、新聞、週刊誌、絵本・児童書、セルフコピー機、蔵書検索端末、自動貸出返却装置、新着図書、コンピュータ端末、ラーニング・commons、カウンター、そして図書館に併設されたカフェなどがあります。ラーニング・commonsの近くにはピアノも置かれていました。また、併設のカフェ「Cafe Pitter Patter」は、入札によって開店したものであるが、和歌山大学の学生によって経営されている、というお話も印象的でした。

見学会の終了後、バスに乗って和歌山市駅前の海鮮料理店に移動して懇親会が開催され、実にボリュームのあるブリしゃぶなど、海の幸を中心とした料理の数々を堪能しました。

懇親会の終了後は近くのホテルに宿泊し、翌日は和歌山を散策しました。朝、ホテルのロビーで集合し、タクシーに乗って和歌山駅に移動、駅に隣接する百貨店で土産物を購入し、JRに乗って湯浅駅まで行き、駅周辺を散策しました。ぶらぶら歩いて、湯浅おもちゃ博物館で翹のアイスクリームを購入、中に入って先ほど購入したアイスクリームを食べつつ、昔懐かしいおもちゃや駄菓子を眺めたりしながら、博物館長(?)のご婦人のお話を聞いていると、あっという間に時間がたってしまいました。また街をぶらぶら歩き、古民家を眺めたり、軒先に掲げられた詩歌を鑑賞したりしつつ、次の目的地である甚風呂(戒湯)に到着しました。こちらは、大正時代には実際に営業していた銭湯を、博物館に改修した施設で、大正時代の日用品など(中には、アイスクリームの製造機なんてものも・・・)が中には展示されていました。また、当時の映画のポスターも浴室だったスペースに貼られており、とても興味深かったです。再び景色を眺めながら歩き、駅近くの定食屋へ移動。一同、生シラス丼の昼食を摂りましたが、食後、店主の方がサービスとして、一人につき、一袋いっぱいのみかんをくださいました。

食後、湯浅駅から電車に乗り、今度は道成寺駅へ。駅から歩いて道成寺へ移動し、参拝しました。この道成寺というお寺は、能や歌舞伎、浄瑠璃の演目として名高い、安珍・清姫伝説で知られるお寺です。この安珍・清姫伝説とは、簡単にまとめると、平安時代、安珍という旅の僧に対して清姫という氏族の娘が一目惚れし、求愛したものの安珍に逃げられたため、清姫は蛇になって安珍を追いかけ、安珍は道成寺の鐘の中に逃げ込んだものの、蛇と化した清姫はその鐘に巻き付き、鐘ごと安珍を焼いて殺

してしまい、清姫もまた蛇の姿のまま入水して果てる、という伝説です。道成寺には本堂の他に宝仏殿があり、多くの仏像がありましたが、やはり特筆すべきは、現代の日本ではこのお寺でしかやっていないという、絵説き説法でしょう。これは、前述した安珍・清姫伝説を、絵巻物を見せながら、道成寺の僧侶の方が解説をしてくださる、というものです。安珍・清姫伝説は、本来、悲劇的な内容ではありますが、実にユニークな語り口で語られるため、その悲劇性をあまり感じることもなく、夢中になってお話を聞くことができました。実は私は、「花よりも花の如く」(成田美名子、白泉社花とゆめコミックス)という能楽師の日常を描いたマンガを愛読しているのですが、このマンガの9巻で、能の演目「道成寺」を演じることとなった主人公が、勉強のために実際に道成寺に行くシーンがあり、その中で絵説き説法の様子も描かれていて、どのようなものか興味があったため、今回、このように実際に絵説き説法を聞くことができたことは、私にとって充実した体験でした。

参拝後、全員で道成寺駅へ戻り、そこで解散となって、私の1泊2日の大図研大阪支部例会が終わりました。

最後となりますが、今回、このような素敵な催しを企画してくださった、大図研大阪支部の皆様、そして、和歌山大学の図書館で勤務されている皆様には、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

以上

いまの そうすけ (京都大学附属図書館 宇治分館)

## オープンアクセスと被引用率の関係

### - 京都大学における生命科学系論文の統計から見えるもの

坂本 拓

2002年にブダペストオープンアクセス宣言が発表されてから13年の時間が流れた。この間、学術図書館の内外でオープンアクセス(以下OA)は比較にならないほど進展した。アメリカやイギリスではOAを原則的に義務化するポリシーを定める機関が増え、日本においてもOA促進の流れは加速しつつある。

しかし、他国に比べて多忙を極めている日本の研究者を、OAに巻き込んで行く際、研究者にとってOAが本当にメリットのあるものかどうかを認識させることの重要性は決して小さくないだろう。研究者にとって大きな関心事の一つである、自己の論文の被引用数がOAによって向上するのであれば、研究者にとって自己の論文をOA化するために多少の手間をかけることへの抵抗も激減するであろう。OAによって被引用率が上昇するのかどうかについては、既に多くの研究がなされており、調査手法や学問分野によって、その結論は変わってくる。これらOAと被引用率に関する研究論文をまとめたサイトを、SPARC Europeが構築しており<sup>1)</sup>、それによると2015年4月現在、合計70の論文によってOAと被引用率の関係が研究されている。そのうち47本の論文(約67%)が、「OAによって論文の被引用率は上昇する」という結論に達しているのに対して、OAが被引用率を上昇させることについて懐疑的な結論の論文は17本(約24%)であった。

この結果は考えてみれば当然とも思える。昨今の狂気の沙汰とも言える学術雑誌の高騰のために、いわゆるビッグディール契約を解消したり、講読タイトルを削減したりする大学が世界的に増加している。そしてこれによって、有名な大手出版社のジャーナルに論文が掲載されたとしても、そのジャーナルを購読している大学が少なくなっている

という状況が起きている。このため或る大学の研究者が上記のジャーナルの論文を読もうと思っても、Pay Per View という手段を取らざるを得ない。ある程度その分野で地位の確立した研究者の論文や、話題性のある論文であれば、たとえ費用がかかっても Pay Per View で読まれて引用されるだろうが、そのジャーナル内で上記のような「被引用数の稼ぎ頭」ではない中堅・若手の研究者の論文であればどうであろうか？ たまたまデータベースのキーワード検索でヒットした、聞いたこともない名前の研究者の論文に、\$30 支払って Pay Per View する研究者がどれだけいるだろうか？

少し話が逸れたが「OA が被引用率を増加させるのか？」については、個人的にはそうであってほしいと思いつつも、本当にそうなのか何らかのデータによる確信が欲しかった。そこでごく簡単な方法として、論文引用データベースである Scopus を使って、京都大学の生命科学系の論文について調査をすることとした。方法は、Scopus 内で”Life Science”に分類されている論文のうち、京都大学の研究者が 2014 年に発表した論文を抽出(A)し、(A)全体の被引用率と、(A)からさらに OA 誌に掲載されている論文のみを抽出(B)し、(B)の被引用率を比較してみる、というものである。

2014 年に発表された、Corresponding Author の所属機関が京都大学になっている生命科学系論文は合計 1,046 本(A)あり、この 1,046 本の論文が稼いだ被引用数は、合計 1,630 であった。それに対して、1,046 本の論文のうちオープンアクセス誌によるゴールド OA の形で発表された論文は 143 本(B)であり、この 143 本の論文が稼いだ被引用数は合計 320 であった。このことから、1 本あたりの論文が稼ぐ被引用数の平均を比べた場合、(A)の場合は 1.55 であったのに対し、OA ジャーナルによって発表された(B)の論文群は、2.23 であり、明らかに OA になっている(B)の方が良く引用されていることがわかった。また、(A)の 1,046 本の論文のうち、1 回でも引用されている論文の数は 478 本であり、(B)の場合は 58 本であった。ここから全論文における、引用されている論文が占める割合は、(A)の場合は約 46%であったのに対し、(B)の場合は約 40%であった。ここから OA ジャーナル掲載論文の方が、1 回も引用されていない論文の割合が高いと言える。

以上、極めて簡単なデータ調査であったが、OA 誌に掲載された論文の方が被引用率は高いが全く引用されない論文の割合も僅かに高い、という結果が得られた。(A)の方にハイブリッド OA の論文も含まれているので、今回の調査は手法として不完全な点もあるが、やはり OA は被引用率を上げる、ということを経験とさせていただきたい。

さかもと たく (京都大学附属図書館)

[1] SPARC Europe : The Open Access Citation Advantage Service

<http://sparceurope.org/oaca/>

## 異動に伴うアドレス等変更のご連絡のお願い

平素より、大学図書館問題研究会京都支部の活動にご参加くださり、誠にありがとうございます。

さて、4月から新年度が開始されるに伴い、新たな職場へと異動され、メールアドレスが変わられた方もいらっしゃると思います。つきましては、大図研京都支部からの諸連絡を円滑に継続させていただくため、お手数ですが新しい所属とメールアドレスを [kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com) までご連絡いただきたいと思います。

また、ご住所の変更等により支部報の発送先が変わられる方も、新たな送付先を上記のアドレスまで必ずご連絡いただきますよう、よろしくお願いたします。併せて、メンバーリスト「ML ゆりかもめ」に登録されているアドレスが変わられる方は、<http://www.daitoken.com/kyoto/yurikamome.htm> より変更の手続きをお願いいたします。何かご不明な点がございましたら、お気軽に [kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com) までご連絡をお願いいたします。

### ◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。2014年度の会費の納入をお願い致します。また、2013年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

**会費は、¥7,000（大図研会費：¥5,000＋京都支部会費：¥2,000）です。**

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

**郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部**

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部（[kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com)）まで。